



Business Objects
Data Integrator XI Release2 Accelerated
(Version 11.7)

動作検証 結果報告書

2007年4月11日

日本ビジネスオブジェクトズ株式会社

Business Objects Data Integrator 11.7 動作検証報告書

ビジネスオブジェクトズ社によって提供され販売される製品と技術は、米国特許番号 5,555,403、6,247,008 B1、6,578,027 B2、6,490,593、6,289,352 により保護されています。ビジネスオブジェクトズのロゴ、BusinessObjects、Crystal Reports、Crystal Enterprise、Crystal Analysis、WebIntelligence、RapidMarts、BusinessQuery は、Business Objects SA 社もしくは、その他の国のビジネスオブジェクトズの商標または登録商標です。この文書中に掲載または言及された他の会社名、製品名、ブランド名は、各社のそれぞれの商標または登録商標です。本文書の記載内容は、予告なく変更される場合があります。誤りおよび省略について弊社は責任を負いません。なお、本文書の無断複写・転載を禁じます。

当資料は、A)その使用が商業目的ではなく情報を得ることのみを目的とし、B)当免責事項に記載される著作権情報を保持することを前提として、使用許可されます。当資料に記載する情報は、いかなる保証もない現状のまま提供されるものです。また、ビジネスオブジェクトズ社は、予告なく内容を変更する場合があります。ビジネスオブジェクトズ社は、商品性、特定の目的への適合性および第三者の権利に対する非侵害性を含めて、明示的にも黙示的にも、一切の保証をいたしません。さらに、ビジネスオブジェクトズ社は、本文書に含まれている情報の使用及び使用結果につき、正確性、真実性等、いかなる表明・保証も行いません。ビジネスオブジェクトズ社による口頭または書面による一切の情報提供またはアドバイスは、保証を意味するものではなく、かつ上記の免責範囲を狭めるものではありません。ビジネスオブジェクトズ社および、ビジネスオブジェクトズ社に対して製品、サービス、権利等を直接間接に提供した者は、如何なる場合も、直接損害、間接損害、特別損害、偶発的損害、派生的損害、逸失利益または懲罰的損害を含む全ての損害について、請求の原因を問わず、例えかかる損害等の発生の可能性につき認識があったとしても、これらを賠償する責任を一切負いません。当資料および該当するソフトウェアは、米国法、DFAR Section 227.7202 および FAR Section 12.212（あるいは、これらのセクションを継承するもの）に従い、「市販コンピュータ ソフトウェア」および「市販コンピュータ ソフトウェア ドキュメント」とみなされます。なお、本文書においては、文書の体裁上の都合により製品名の表記において商標登録表示、その他の商標表示を省略している場合がありますので、予めご了承ください。

目次

1. はじめに	4
1.1. 本書の目的.....	4
1.2. 検証環境.....	5
1.3. サーバー.....	5
1.4. クライアント.....	5
1.5. データベース.....	5
1.6. 実施期間.....	5
2. 検証内容	6
2.1. インストール.....	6
2.2. ETL 動作検証.....	6
2.2.1. CSV ファイルからデータベースへ.....	6
2.2.2. データベースからデータベースへ.....	6
2.3. 文字コードの検証.....	7
3. 連絡先	8

1. はじめに

1.1. 本書の目的

本書は、DWHやDMへのデータ統合を支援する ETL（抽出 Extract /変換 Transform/格納 Load）製品である Business Objects Data Integrator XI Release2 Accelerated (Version11.7) の、富士通 SPARC Enterprise M9000 (SB0) 上での動作を検証した結果を報告するものです。

Business Objects Data Integrator XI Release2 Accelerated とは、企業内の全てのユーザーに対して、ビジネスに対する広範囲な視野を提供し、効果的な意思決定を支援するために、迅速かつ柔軟にデータを統合し、確かな情報に変える、信頼ある情報基盤を提供するためのフレームワークである Enterprise Information Management (EIM) における、三つのカテゴリー（メタデータ管理、データ統合、データ品質）の内、データ統合の部分を担当する製品です。

業界を代表する ETL 製品として、全世界で 1,500 社を超える企業に採用されている「Data Integrator」の今回の新版では 64bit UNIX プラットフォームへと対応プラットフォームが拡張されました。



1.2. 検証環境

1.3. サーバー

ハードウェア

富士通 SPARC Enterprise M9000 (SB0)
SPARC64 VI 2.4 GHz(2core) CPU x2, 32GB Memory, 73GB HD x 4
OS: Solaris10

ソフトウェア

Business Objects Data Integrator XI Release2 Accelerated Server
JDK1.5.0_07

1.4. クライアント

ハードウェア

富士通 FMV830NA
Pentium 4 3.2GHz CPU x1, 2GB Memory, 80GB HD x1(EIDE)
OS: Windows XP Professional

ソフトウェア

Business Objects Data Integrator XI Release2 Accelerated Designer
Oracle Client

1.5. データベース

Oracle 10.2.0.0

1.6. 実施期間

2007年3月28日(水) ~ 2007年4月6日(金)

2. 検証内容

2.1. インストール

Data Integrator XI Release2 Accelerated のインストールが正常に行えることを確認しました。

2.2. ETL 動作検証

2.2.1. CSV ファイルからデータベースへ

CSV ファイルをデータソースとし、ターゲットをデータベースとして、データがロードできることを確認しました。

2.2.2. データベースからデータベースへ

データベースをデータソースとし、ターゲットをデータベースとして、データが特に問題なくロードできることを確認しました。

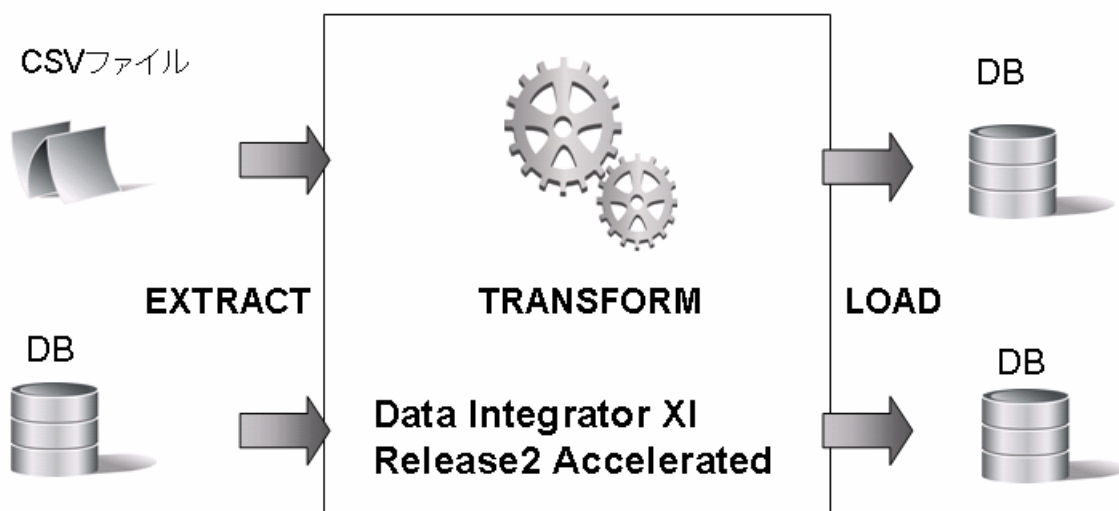
検証に当たっては、指定したスキーマを持つテーブルを、ターゲットデータベース上に自動生成した後、CSV から読み込んだデータをそのテーブルに対してロードしました。

処理概要一覧

データソース	ターゲット	処理概要
CSV ファイル	データベース	CSV ファイルの一行をテーブルの 1 レコードに対応づけてデータをロード
データベース	データベース	ソースとして指定したテーブルのデータを同一のスキーマを持つテーブルにロード
データベース	データベース	ソースとして二つのテーブルを指定し、指定された結合関係により、両方のデータを結合し、ひとつのターゲットテーブルにロード

※今回の検証においては、ETL の基本動作についての動作検証を目的とし、性能に関する検証は行っておりません。

処理イメージ



2.3. 文字コードの検証

Shift-JIS、ECU-JP、UTF8 のそれぞれをデータソースとして用い、データが特に問題なくロードできることを確認しました。

検証方法としては、データソースとしてそれぞれの文字コードで作成されたファイルを用い、データ移行後のターゲットデータベース上でデータベースツールを用いて確認を行いました。

また、クライアントマシンにインストールされた **Data Integrator Designer** 上で、検証を行ったすべてのケースについてソースおよびターゲットのデータが問題なく表示されることを確認しました。

※今回の検証においては、特殊文字等のすべての文字についての網羅的な確認は行っておりません。

以上

3. 連絡先

本書に関するお問い合わせは以下までお願いします。

日本ビジネスオブジェクト株式会社
セールスコンサルティング部
〒150-6028 東京都渋谷区恵比寿4-20-3
恵比寿ガーデンプレイスタワー28F
TEL : 03-5447-3820 (部門代表) FAX : 03-5447-3905
e-mail : presales.japan@businessobjects.com